

令和8年度 戸田市立戸田第二小学校 教育プラン

急激に変化する社会

- 生成 AI 等テクノロジーの進化、少子高齢化や自然災害など、社会や経済の先行きに対する不確実性が極めて高まっている。
- マルチステージの人生モデルへ転換する中、正解のない問いに向き合い、自らの人生を主体的に舵取りする力（エージェンシー）が求められている。
- 多様化が進む中、困難を環境の障壁と捉える「社会モデル」の視点に立ち、全ての人のウェルビーイングを実現する社会の構築が急務である。

現代的な学校教育の課題と取組の方向性

- 児童の自己有用感の低さが課題となる中、「多様性の包摂」と「深い学びが生まれる個別最適な学び」の実装が要となる。教師主導から脱却し、子供自身が学びを自己調整する学習者主体の授業への転換が必要である。
- 全ての児童が多様であり時に支援を要するという前提のもと、教育データの利活用と、応用行動分析学を基盤とする PBS（ポジティブ行動支援）による多層型支援が不可欠である。組織的支援スキームを確立し、誰一人取り残されない学校を実現する。

学校教育目標 *Mission* 《果たす役割》

校訓 自主 誠実 和楽

「心豊かに 21世紀を たくましく 生き抜く子」の育成

目指す学校像 *Vision* 《目指す姿》

誰一人取り残されない学校

～多様性を包摂し、一人一人の可能性と Well-being を開花させる～

育成を目指す資質・能力と目指す児童像 *Vision* 《目指す姿》

Agency：自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力

重点的に育成する資質・能力：「創造性」「問題発見力」「論理力」「主体性」

創造性

- 多様な考えや知識を結びつけ、新しい価値を生み出そうとする子
- 失敗を恐れず試行錯誤し、自分なりの考えを形にする子

問題発見力

- 当たり前を問い直し、よりよくするための課題を見つける子
- 身の回りから「なぜ」を見つけ、探究しようとする子

論理力

- 根拠に基づいて筋道立てて考え、対話で学びを深め合う子
- 様々な情報を整理し、他者と協働して納得解を導き出す子

主体性

- 自ら目標を持ち、学び方を自己調整して粘り強く取り組む子
- 当事者意識を持ち、自分の学びや行動を自ら選び、決める子

目指す教職員像 *Vision* 《目指す姿》

自らも「自律的な学習者」として探究し、子供の学びの伴走者となる教職員

児童に寄り添い、自ら考え行動できるよう伴走する教職員【確かな指導・支援力】

社会モデルの視点で環境を整え、多様性を包摂する教職員【多様性の尊重・包摂力】

自らも探究者として学び続け、チームで協働する教職員【探究心・協働性】

保護者や地域、専門家と連携し、共に子供を育む教職員【信頼・共創力】

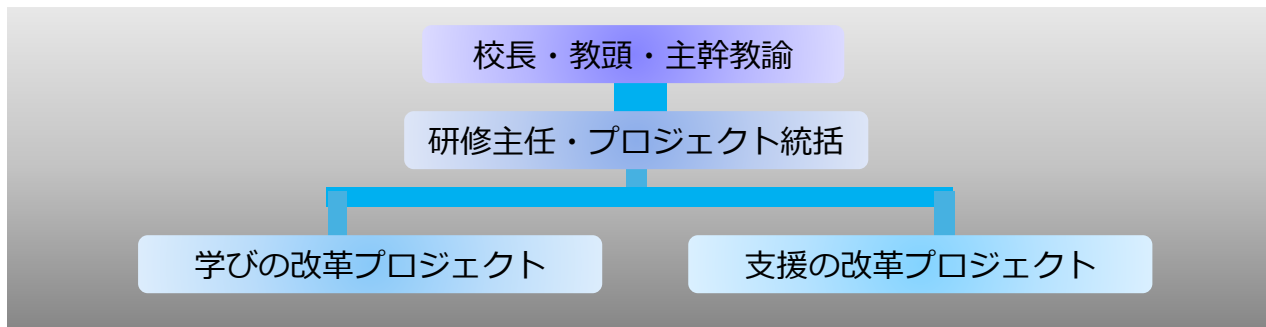
心身ともに健康で、活力とゆとりを持ち子供に向き合う教職員【自己管理・活気】

学校経営方針 *Value* 《大切にしている価値観》

全ての児童が「学校生活が楽しい」、「学びが楽しい」と実感できる教育を行う。

- 1 多様な児童が在籍していることを前提とし、「社会モデル」の視点に立って学習環境やカリキュラムの障壁（バリア）を取り除く学級経営と授業を創造する。
- 2 全教育活動において「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させて「深い学び」を創出し、児童が自ら学びの舵をとるエージェンシー（自己決定・自己調整）を育む。
- 3 教育活動の評価は全体・集団・平均の観点から脱却し、教育データやアセスメントに基づく「一人一人の確かな伸びと変容」を価値づける。
- 4 問題行動を罰や叱責で封じ込めず、ポジティブな声かけや称賛・承認（PBS）による第1層支援の充実を土台とし、全ての児童が安心できる環境を創る。
- 5 「一律・一斉の教え込み」から「児童が学びを自己調整し主体的に学ぶ」へと授業観を転換し、教師は学びの伴走者となる。
- 6 「子供は有能な学び手」：子供は生まれながらにして有能な学び手であり、適切な環境さえあれば自立的に学んでいくという教育観に立つ。
- 7 「学び手は常に正しい」：児童の行動は環境との相互作用であると捉え、応用行動分析学とPBSに基づき、児童の「学び」と「行動」を多層型で支援していく。
- 8 全教育活動において、児童が学校生活の「創り手（当事者）」となる機会を設け、自己有用感と Well-being を高める。
- 9 「生徒指導から児童支援」、「学習指導から学びの支援」へと転換し、児童が自らの生活や行動を自己決定し、自律的な学習者として学び続けるためのサポートに重点を置く。
- 10 教職員は「自律的な学習者（探究者）」として教育観を常にアップデートし、「チーム学校」として専門家や地域と協働・共創する。
- 11 教職員の健康はあらゆる教育活動の基盤であり、心身を整え、活力とゆとりを持ち、笑顔で子供の前に立つことが最良の教育環境であるという認識を共有する。

学校運営・研究推進組織 一学びと支援の改革プロジェクト



令和8年度 重点取組

重点取組①「多様性を包摂した誰一人取り残されない教育と『多層型支援』の推進」

- 社会モデルに基づく「多層型支援システム」によるインクルーシブ教育の推進
 - ・すべての児童の「学校が楽しい」、「学びが楽しい」を最上位目標に設定。
 - ・「社会モデル」の視点に立ち、学習環境やカリキュラムの（障壁）バリアを取り除くことで、多様な児童がそのままの姿で安心・安全な居場所と感じられる学級づくりに取り組む。
 - ・WEB-QU 調査やアセスメントデータを活用し、「学級満足度」の向上を指標とした学級経営を行う。
 - ・支援が必要な児童を学校全体で包み込む、シームレスな支援体制を構築する。
（通常学級・支援学級・保健室・ぱれっとルーム・日本語指導教室の有機的な連携）
- 学校全体で取り組むポジティブ行動支援（SWPBS）の推進
 - ・称賛と承認によって望ましい行動を増やし、すべての児童にとって過ごしやすい学校を創る（課題対応型生徒指導→発達支持的生徒指導への転換）。
 - ・ポジティブな行動支援を基盤とした学級経営と授業を実践する。
 - ・児童が自ら企画・運営する PBS キャンペーンを積極的に取り入れ、主体的に行動する力を育む。
 - ・特別活動と SWPBS を一体化させ、児童間の相互承認・称賛の機会を創造する。
- 第1層支援を土台とした「第3層支援」の充実 【R8 重点】
 - ・すべての児童を包み込む「第1層支援（環境調整・ユニバーサルデザイン）」の充実を土台とする。
 - ・支援がより必要な児童に対し、応用行動分析学（ABA）に基づき、追加支援や合理的な配慮等の公正な学習・生活支援を行う。
 - ・サポートミーティングを中心に、専門家や関係機関と連携した組織的な第3層支援体制を確立する。

重点取組②「未来社会を創り出す、自律的で『深い学び』を実現する資質・能力の育成」

○ 個別最適な学びと「深い学び」の創出

- ・「教える」一斉・一律型指導から、児童が自分に合った学び方を選択し、時間やペースを自律的に計画・調整する「児童主体の学び」へと転換し、教師は伴走者となる。
- ・一時間完結型の「本時主義」から脱却し、単元全体を見通した学習デザイン（単元主義）へ転換することで、児童が自律的に学びを深めるプロセスを創出する。
- ・「主体的な学び」に留まらず、対話的・協働的な学びによって「深い学び」が生まれる時間を単元の中で意図的に設定する。
- ・単元前・中・後の RTI やダッシュボードの教育データを利活用し、客観的な見取りと指導改善のサイクルを確立する。

○ 非認知能力の育成 ◎重点：創造性・問題発見力・論理力・主体性

- ・全教育活動を通して、正解主義から脱却し、創造性・問題発見力・論理力・主体性を育成する。
- ・正解主義から脱却し、児童が身近な環境（50cm 革命）から課題を見つけ、他者と協働して解決していく PBL（Project Based Learning）を全学年で推進する。

○ 学びの DX とデータ利活用の推進

- ・ダッシュボードや学力調査、単元テスト等の教育データを日常的に活用し、経験や勘のみに頼らない「客観的な見取り」と「個別最適な支援」を高度化する。
- ・デジタルシティズンシップ教育を基盤とし、情報モラルを守るだけでなく、テクノロジーを用いて社会や学校の課題をポジティブに解決していく「デジタルクリエイター（創り手）」を育成する。

Toda Dai-ni Elementary School

誰一人取り残されない学校を創るための3つの柱

責任ある行動をとる力



スクールワイドPBS

問題行動を叱責や罰則で抑え込むのではなく、望ましい行動に注目し、称賛と承認で増やしていく。

新たな価値を創造する力



個別最適な学び

多様な児童の主体性・学習意欲・自律を大切にしながら個別最適な学びを全学年・全教科で推進する。

対立やジレンマを克服する力



支援スキーム

一人一人に最適な指導・支援を多層型で実行するための、枠組み及び組織的な推進体制を構築する。

児童の自律・主体性を育む教育活動を全教職員で推進